

図書館だより

三珠中学校図書館
令和7年11月号

10月27日から11月9日まで読書週間です。読書週間の歴史は1947年（昭和22年）から始まり、今年で78年目です。現在、情報伝達の流れは大きく変容しようとしています。しかし、使い手が人間である限り、その本体の人間性を育て、かたちづくるためには「本」が重要な役割を果たすことはかわりません。「本」のかたちが紙でも電子ブックでも読むことは人としてとても大切なことです。

本をめったに読まないという人は、この機会に読んでみませんか？



図書委員会からのお知らせ

読書週間にちなみ、図書委員会では「読書郵便」をしています。読書郵便のはがきでみなさんの推しの本を紹介してもらっています。推し本の最初の一文を読んで、読んでみたいとおもったら、その本をぜひ読んでみてください。

まだ提出していない人は随時受け付けています。図書館にあるポストに入れてください。とくに3年生の提出が少ないです。ぜひ、読書郵便の参加をおねがいします。

スタート

ま	ほ	う	い	の	ぶ	た	は	お	や	お
ほ	う	つ	か	や	き	と	り	は	び	ゆ
う	つ	か	は	な	み	ず	で	に	ほ	や
の	か	い	と	る	け	か	な	か	ど	の
び	が	か	ら	つ	た	を	の	そ	の	か
ん	み	ら	も	た	ず	と	あ	わ	と	
は	を	み	て	も	ね	み	く	た	と	い
ま	ま	き	ま	を	に	さ	ね	お	い	と
う	ほ	し	た	は	な	が	が	ん	に	わ
び	ん	で	た	し	ま	き	で	な	が	い
て	で	が	め	む	ね	が	こ	の	し	ま
ふ	く	ら	ん	で	つ	て	い	ま	し	た

ゴール

おはなし迷路

正しい文になるように
迷路をすすみましょう
ゴールまでのおはなしが
つながったら教えてください。
さい。…で、本を借りて
くじを引いてください。
今まで貯めた本Goodsを
あげます！たくさんの参加を
お待ちしております。

新着本情報

少年と悪魔 佐藤まどか 著

本の内容を知るために、2～3ページ読むのですが、つい一気読みしてしまった本があります。今回紹介する本がそれです。

「居所不明児童」という言葉を知っていますか？住んでいた地域や家庭または学校から姿を消しその後の所在が確認できない子どものことをいいます。平成26年の調査では全国で224人「居所不明児童」がいるそうです。

主人公のいっくんもその一人です。彼はいっくんと父親（？）と各地を借金取から逃げるように生活していました。時にはホームレスもしていました。三食まともに食べることもできず、お金のためにいっくんから指示されて盗みのようなこともしていました。本当はそんなことしたくないと思っているけど、罪を犯さないと生きていけないと自分に言い聞かせていました。

この本を読んで、学校へ毎日通うという普通の生活をこんなにも欲している子どもがいることに涙が出てきました。フィクションとはいえ、現実にはそういう子どもがどこかにいるということもショックでした。ぜひ、みなさんに読んでほしい作品です。

47都道府県 日本の地元食大全 菅原佳己 著

全国47都道府県の地元スーパーに売っている『ご当地もの』が網羅されています。山梨県でいえば、『オギノ』などがご当地スーパーでしょうか。しかし、この本の山梨県地元食はちょっとちがうかな…。という感じでした。ですが、旅行する前に行く場所の『ご当地もの』をこの本で調べておくと楽しいかもしれません。

真昼にも星が光ると知ったのは 梨屋アリエ 著

夏鈴は大好きな親友、菜白と出かけた帰りの電車で、菜白が（視覚が不自由だと思われる）白杖を持った人に、席を譲るのを夏鈴は見ました。しかし、座ったあと、その人はスマホを見ていたことに夏鈴は「目が見えないはずなのに、スマホを見ているのはおかしい。」と感じてしまいます。そして、降りた駅で、その杖をもった人へ直球な質問をぶつけます。すると、一緒にいた通訳・介助員が手話を交えて教えてくれました。目は全く見えないわけではなく少しは見えること、杖も通訳・介助員がいるから使わなくても大丈夫だと教えてくれました。まだ、いろいろこの二人には疑問点がありましたが、いちいち通訳・介助員が間に入ることが面倒なので、その場を夏鈴はお礼を言って去りました。翌日そのことを大好きな菜白に伝えたと、菜白は「本人にそんなことを直接聞いたのか！？」とびっくりされてしまいます。夏鈴はそこで「なんでそんなにびっくりされるの??？」とあってしまいます。

盲ろう（聴覚視覚障害）の青年、重い病気をもった兄妹たち、そして後にわかる夏鈴の秘密など、それぞれの登場人物のもつ様々な生きづらさや障害などをこの物語から知ることができます。